

令和元年度 埼玉県高等学校 PTA 連合会 南支部役員等研修会 参加報告

開催日 令和元年 10 月 20 日、21 日
開催地 福島県母畑温泉『八幡屋』、いわき市内など
参加者 高岡校長、成田 PTA 会長、松田、松前、高橋、藤崎



第 1 日目

【講演会 ～復興を支える人のつながり～】



富岡町 3.11 を語る会代表の青木淑子先生による講演会が行われました。青木先生は富岡高校の校長先生として勤務されている時に、富岡町と深い連携、町民に助けられてきたことに啓発されて、震災後の被災者支援をライフワークとしているそうです。自然災害の地震、津波、そして人災である原発事故は、住んでいた人の人生を変えてしまいました。当時町民には正しい情報が届かない

日も多かったそうです。風評被害もあり、震災前は約 16000 人いた人口は現在約 1100 人。町を創るのは人、町を壊すのも人、崩壊した町を創るのも人、人は人によってしか救われれないということを実感しました。現在、富岡高校は休校しています。青木先生は仲間と月 1 回、休校になった富岡高校グラウンドで校歌を歌うそうです。震災から 9 年近くたちました。私たちはまだ震災について知らないことが多いかもしれません。自分たちがいる場所今、何をすべきか考えさせられたような気がしました。

【専門委員会の発表と研究協議】

(1) 高校教育と PTA 県立南稜高等学校 ～コミュニケーション力で生徒の成長を応援～

「ワールドカフェ」という生徒会から上がってきたテーマをもとに、学校・生徒・保護者・地域がそれぞれ意見を出し合う討論会を実施しているそうです。お互いの意見を尊重し、対等に話を聞くことで意見を出しやすくと、コミュニケーションが円滑に図れます。そして結論を出さないことがポイントで、無理に結論を出さない方が次に進むことができるのだそうです。意見が出し合える環境を作ることは、親子での会話などのコミュニケーションをより豊かにできるのではと思いました。

(2) 進路指導と PTA さいたま市立浦和高等学校 ～子供への諦めないサポート～

課題に対する意見と解決に向けて、主体的・協導的に学ぶ学習のアクティブラーニングに取り組んでいるそうです。すなわち、これは生徒が潜在的に持っている学ぶ力を、有効に引き出すことが出来る協同学習を取り入れる方法です。まず同じ資料を読み合うグループを作り、お互いに理解を深めます。次に違った資料を読んでいた人がいるグループに入り、ここでも意見を出し合い理解を深めます。最後は、討論を経て結果得られた、自分自身の問いに対する答えを記述するという流れの授業です。理解力だけではなく伝達能力も身につけ、社会生活を送る上でのスキルが実践を通じて学べる、有意義な授業であると思いました。また、この授業では、生徒にとって、身近で共感できる卒業生の保護者の言葉も聞くことができ、受験に挑む子供たちの背中を押してくれているそうです。私たち保護者も授業に参加しながら生徒をサポートできるのはとても魅力的でした。

(3) PTA 活動と生徒指導 県立川口北高等学校

～チーム川北で、目指すは最高レベルの私。学校応援団として～

PTA 活動の中で、生徒指導はとても難しいと言われています。川口北では、保護者が学校と同じ方向を向いて、生徒だけではなく、学校の



活動も応援、手伝えることを通じて、生徒指導活動しています。PTA 活動で、保護者と先生方との交流を深め、情報共有をして、親子ともども問題行動を前向きに改善していく生徒指導を行っているそうです。心の通った温かい生徒指導は、生徒たちの心に向上心を起こさせ、社会の中で自分らしく生きていくために必要な情操を育むものだ実感しました。

(4) 家庭教育とPTA 県立大宮高等学校 ～卒業生に学ぶ会を通して～

「授業中心」「難関大学を現役で合格」「勉強と部活動等の両立」を掲げている大宮高校で、『卒業生に学ぶ会』を開催しています。卒業生やその保護者に学生時代の体験談を聞いて、それを家庭に持ち帰り子供と共有できる家庭教育を行っていました。子供たちが自分の力で勝ち取った部活動、進路。それを判断するのは親ではありません。子どもを支えるための万全の準備が必要ですが、子どもの自立のためには、卒業生やその保護者から身近な体験談を聞くことは、内発的に子ども自身が自立する意欲をかきたてるものだと思います。支えることと見守ることの絶妙なバランスが、よく育てる秘訣なのではと考えました。

第2日目

【豊間・薄磯地区東日本大震災被災地視察】

各バスに乗車して下さった、いわき市語り部の会の方より説明を受けながら、復興の現状を車窓から見学しました。私たちのバスは、大谷さんが担当して下さいました。いわき市の沿岸にある「豊間・薄磯地区」は、東日本大震災で甚大な被害を受けたことを語って下さいました。当時、大谷さんは海から200メートルの場所に住んでおり、実際に津波を目の当たりにし、必死の思いで避難をして助かったそうです。津波の高さは約9メートル、地区以外の方も含め249名が津波の犠牲になったそうです。実際に体験した方の話はとても迫力があり、一瞬で建物も人もなくなる絶望感・恐怖感は私たちにも強く伝わり、涙も流れました。現在は防潮堤の工事や高台での住宅地造成が進んでいました。しかし、決して復興したとは言えません。お店もなく、人も減り、まだまだ復興に向けて頑張っていることが感じられました。大谷さんは、最後私たちに、「自分の命は自分で守る、避難する場所を家族で決めておく、すぐに避難する」と語って下さいました。



～研修会に参加して～

私は県外研修会に参加したのは初めてでしたが、他校の研究発表や学校概要、PTA 活動について知ることができたのは非常に有意義なものでした。また、研究発表では本校でも実践できるような事例もあり、早速活用してみようと考えました。他校の方々とも懇親会で話をすることもでき、貴重な情報交換ができました。今回は福島県開催ということもあり、白河の小峰城や塩屋崎灯台の見学もしました。そして何より東日本大震災の被災地の見学や被害に遭われた方の話を直接伺えたことは大きな収穫でした。語って下さった皆様の、伝えていかないといけないという強い思いを受け止め、今、私たちができることを、学校や家族で話し合う必要性を感じました。また、福島県は台風で甚大な被害を受けた地域もありました。一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。私が訪れた場所は台風の被害はなかったものの、このような状況にある中、私たちを迎え下さったことに感謝申し上げます。



(文責 本部)